



ある時、急になくなってしまういのち。  
私たち人間は、小さい頃から、人はやがて死ぬ、  
必ず死ぬのだということを  
普段の生活の中で伝えていかなければ  
ならないのではないだろうか。

今泉 忠明

# 同朋新聞

どうぼうしんぶん

Dōbō Shimbun

1

Vol. 782 January 2023

Shinran  
SS500th

南無阿弥陀仏  
人と生まれたことの意味をたずねていこう

## 今月の写真

草原を散歩する親子。  
散歩をしながら何を話しているのだろう。  
さまざまな縁によって今、私のところにつながっているいのち。その事実に向き合い、生活の中で周りの人とそのことを共有する時と場が私たちに求められている。(2・3面参照)

## CONTENTS

2・3面

### 人間といういのちの相

生き物たちが  
教えてくれること(後編)  
今泉 忠明さん



6・7面

### 新春対談

伝えるということ  
桂小春團治さん  
×  
木越渉宗務総長



4面

### 現在を生きる

御同朋・御同行からの問いかけ  
～是施陀羅の課題～ 第14回

5面

### 親鸞聖人にであう

第6回

8面

今月の法話 第28回



10・11面

### 慶讃NEWS

岡崎教区  
岐阜高山教区  
大阪教区  
慶讃法要お待ち受け大会  
開催



慶讃特設サイト

検索

発行所  
真宗大谷派宗務所  
代表者 木越 渉  
編集／東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)  
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る  
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)  
購読料 無料  
送 料 1部1ヵ年1,300円(部数により変動)  
振替口座番号 01000-6-27404  
加入者名 東本願寺出版部

連載

# 人間といういのちの相



生物学は、生命の起源を探究する学問ですが、どうしたらいのちが存在するのかということが、まだわかっていないのです。DNAの構造はわかっても、そこにいのちは入っていない、つまり、生きていないのです。生きるということが、いまだにわからないのです。また、同じような傷を負っても、なくなる人と生きている人がいます。ある時、急になくなってしまういのち。私たち人間は、最後

は必ず死ぬということをたぎ込まれていないように思います。小さい頃から、人はやがて死ぬ、必ず死ぬのだということを普段の生活の中で伝えていかなければならないのではないのでしょうか。

——死を学び伝えるために具体的に実践できることは何でしょうか。

一番は、ペットを飼うことです。ペットは自分より寿命が短い。いのちがなくなることを感じることができません。子どもは、死ぬということを怖がるかもしれません。しかし、生き物というのはいつか死ぬんだということを暗に思う、そのことが大事ではないかと思っています。

——私たち大人が、子どもたちにどんな情報を伝えていくのが大切なのでしょうか。

そうですね。大人が、これは汚い、怖い、危ないと言えば、必ずそれは子どもに伝わっていくのです。大昔は、これが安全につながったのでしょう。生き物とのふれあいについて言えます。子どもたちは好奇心が勝っていますから、自分から動物と触れあおうとします。それを大人の判断でやめなさいと言ってしまうと、子どもたちが不必要に怖がったり、嫌がったりする状況が生まれてしまいます。

また、人間が新しいことを身にづ

けるのを待っているだけなのです。子ゾウが死んだ時も、そばにずっとお母さんがいます。でもある日、子ゾウが腐り始めると「これは違うな」とお母さんは、そこから去ります。チンパンジーも自分の赤ちゃんが死んだ時、腐るまで抱っこしています。動物はいつもと違うという感覚はありますが、死を理解していないのです。

——死を理解できるのは、人間だけなのですね。動物と人間の違いとして、葬送を行うかどうかという考えもありますが、どのように考えることができるのでしょうか。

さまざまな説がありますが、動物と一緒に死を理解していなかったと言われる人間は、約3万年前に死を理解し始めたと言われています。イラクの北部の遺跡から発掘されたシヤニダール人の埋葬跡の周りの土を調べると、たくさんの花粉が確認

いるということが最近わかりました。その2割を取り除くと、また別の2割がさばりだします。常に2割がさばっているのです。その2割のハチは何のためにいるのかというと、種が絶滅しないために、敵に会って全滅しそうになると、復活するのです。種の全滅を免れるのは、サボっていたハチたちがどこかへ行って時間をつぶして帰ってきて、「みんな、いないじゃないか」と、もう一度作り直すことができるからなのです。

生き物の残念な部分というのは、他のものの役に立っているという意味では、常に役に立ちますし、あつていいのです。むしろ、残念なところが何もない生き物はいないと思います。

また、『さんねんないきもの事典』では、さまざまな生き物の多様性を紹介してきました。人間も同じで、いろいろな人がいていいのです。

そして、強者だけが繁栄するのではなく、小さいもの、弱いものが生き残るためにそれぞれ工夫して、一生懸命に生きている様子も紹介してきました。だから人間も、誰かと自分を比べて必要以上にがんばらなくてもいいと思います。好きなことを見つけて、「なぜだろう」「面白い」という好奇心を大切に、自分から何かを知ることを楽しんでほしいと思います。

『もうつとわけあつて 絶滅しました。』

いずれもダイヤモンド社刊  
定価1,100円(税込)

今泉忠明監修 丸山貴史 著

『わけあつて絶滅しました。』

『続わけあつて絶滅しました。』

今泉忠明さん監修の書籍紹介

今泉さんが監修されている『わけあつて絶滅しました』では、絶滅した生き物たちが自らの絶滅理由を語っています。人間もいずれ絶滅する可能性があるのでしょうか。

今のままだったら、人間は確実に絶滅すると思います。人間は、生きるための知恵や文化を伝承し、栄えてきました。しかし、お金が発明されて以降、欲が出てきて生きること以上にもっと栄えたいという欲を文化の中でかきたててきたのではないのでしょうか。その中で人間関係がぎくしゃくしてきているのではないかと思います。少し前までは、安心して山を歩けたり、ドアに鍵をかけなくても不安がないという文化がありました。それが、今は人々

と人とのつながりも薄くなってしまつて「人を見たら泥棒だと思え」と、人を疑うようになってしまつています。

もし「地球に星がぶつかつて絶滅する」となった時でも、みんなが他の星に移住すれば人間は絶滅することはないでしょう。しかし今は、その宇宙船を横取りする欲深い人がいるような状況ではないのでしょうか。戦争もそうですが、自分のことしか考えないという人間のエゴによって絶滅に向かつてしまつのではないかと思っています。

人間の特性は、思いやりです。人間は次の世代にいのちをつないでいくために何ができるだろうと考えて行動する「いい人」がもっと多かったのではないかと思います。おじいちゃん、おばあちゃんは孫のためなら、自分の思いを超えて何かをしてあげたいと行動することが多いのではない

のでしょうか。他者を思つて行動する。そういう人が増えていくことを願っていますし、きつとそういう世界になるのではないかという気がしているのです。

動物は葬送しない

——人間の特性は思いやり。他者の存在に目を向けるということとはとても大切なことだと思います。動物と人間の違いについてもう少しお尋ねしたいのですが、動物に死生観というようなものはあるのでしょうか。

動物に他のものを悼むという気持ちはありません。ゾウが仲間の遺体に近寄ったり触れたりする様子を「ゾウの葬式」とテレビで流れることがありますが、それは亡くなった仲間のことを、いつまでも寝ていて、いつもと様子が違うと思つて、起

きたるのを待っているだけなのです。子ゾウが死んだ時も、そばにずっとお母さんがいます。でもある日、子ゾウが腐り始めると「これは違うな」とお母さんは、そこから去ります。チンパンジーも自分の赤ちゃんが死んだ時、腐るまで抱っこしています。動物はいつもと違うという感覚はありますが、死を理解していないのです。

——死を理解できるのは、人間だけなのですね。動物と人間の違いとして、葬送を行うかどうかという考えもありますが、どのように考えることができるのでしょうか。

さまざまな説がありますが、動物と一緒に死を理解していなかったと言われる人間は、約3万年前に死を理解し始めたと言われています。イラクの北部の遺跡から発掘されたシヤニダール人の埋葬跡の周りの土を調べると、たくさんの花粉が確認

されました。花粉を分析していくと、キクの仲間の花が埋葬に使われたことがわかりました。そして、死者に花を手向けたのではないかという説が出て、さらに調査したところ、薬草の花粉であることや、季節が秋だということもわかりました。その頃、人間が死をわかりだしたと言われています。

また、お葬式をするのは人間だけです。伝承を通して、今までのような知恵を伝えてくれたおじいちゃん、おばあちゃんが亡くなって、それを送るということは、感謝の気持ちがあるからこそであり、それがお葬式という形になつてあらわれているのだと思います。しかし、現代は葬送はいらなという風潮もあるようです。今を生きている私たちは、どこか自分一人の力で生きていると思ひ込んでいるのかもしれない。「この人がいたからこそ自分が存在できている」

人間は絶滅する？

——今泉さんが監修されている『わけあつて絶滅しました』では、絶滅した生き物たちが自らの絶滅理由を語っています。人間もいずれ絶滅する可能性があるのでしょうか。

今のままだったら、人間は確実に絶滅すると思います。人間は、生きるための知恵や文化を伝承し、栄えてきました。しかし、お金が発明されて以降、欲が出てきて生きること以上にもっと栄えたいという欲を文化の中でかきたててきたのではないのでしょうか。その中で人間関係がぎくしゃくしてきているのではないかと思います。少し前までは、安心して山を歩けたり、ドアに鍵をかけなくても不安がないという文化がありました。それが、今は人々

と人とのつながりも薄くなってしまつて「人を見たら泥棒だと思え」と、人を疑うようになってしまつています。

もし「地球に星がぶつかつて絶滅する」となった時でも、みんなが他の星に移住すれば人間は絶滅することはないでしょう。しかし今は、その宇宙船を横取りする欲深い人がいるような状況ではないのでしょうか。戦争もそうですが、自分のことしか考えないという人間のエゴによって絶滅に向かつてしまつのではないかと思っています。

人間の特性は、思いやりです。人間は次の世代にいのちをつないでいくために何ができるだろうと考えて行動する「いい人」がもっと多かったのではないかと思います。おじいちゃん、おばあちゃんは孫のためなら、自分の思いを超えて何かをしてあげたいと行動することが多いのではない

のでしょうか。他者を思つて行動する。そういう人が増えていくことを願っていますし、きつとそういう世界になるのではないかという気がしているのです。

動物は葬送しない

——人間の特性は思いやり。他者の存在に目を向けるということとはとても大切なことだと思います。動物と人間の違いについてもう少しお尋ねしたいのですが、動物に死生観というようなものはあるのでしょうか。

動物に他のものを悼むという気持ちはありません。ゾウが仲間の遺体に近寄ったり触れたりする様子を「ゾウの葬式」とテレビで流れることがありますが、それは亡くなった仲間のことを、いつまでも寝ていて、いつもと様子が違うと思つて、起

きたるのを待っているだけなのです。子ゾウが死んだ時も、そばにずっとお母さんがいます。でもある日、子ゾウが腐り始めると「これは違うな」とお母さんは、そこから去ります。チンパンジーも自分の赤ちゃんが死んだ時、腐るまで抱っこしています。動物はいつもと違うという感覚はありますが、死を理解していないのです。

——死を理解できるのは、人間だけなのですね。動物と人間の違いとして、葬送を行うかどうかという考えもありますが、どのように考えることができるのでしょうか。

さまざまな説がありますが、動物と一緒に死を理解していなかったと言われる人間は、約3万年前に死を理解し始めたと言われています。イラクの北部の遺跡から発掘されたシヤニダール人の埋葬跡の周りの土を調べると、たくさんの花粉が確認

されました。花粉を分析していくと、キクの仲間の花が埋葬に使われたことがわかりました。そして、死者に花を手向けたのではないかという説が出て、さらに調査したところ、薬草の花粉であることや、季節が秋だということもわかりました。その頃、人間が死をわかりだしたと言われています。

また、お葬式をするのは人間だけです。伝承を通して、今までのような知恵を伝えてくれたおじいちゃん、おばあちゃんが亡くなって、それを送るということは、感謝の気持ちがあるからこそであり、それがお葬式という形になつてあらわれているのだと思います。しかし、現代は葬送はいらなという風潮もあるようです。今を生きている私たちは、どこか自分一人の力で生きていると思ひ込んでいるのかもしれない。「この人がいたからこそ自分が存在できている」

## 生き物たちが教えてくれること「後編」

インタビュー ● 今泉 忠明さん



動物学者。1944年東京都生まれ。東京水産大学(現東京海洋大学)卒業。国立科学博物館で哺乳類の分類学・生態学を学ぶ。文部省(現文部科学省)の国際生物学事業計画(IBP)調査・環境庁(現環境省)のイリオモテヤマネコの生態調査等に参加。上野動物園の動物解説員、ねこの博物館館長、日本動物科学研究所所長などを歴任。ベストセラー『さんねんないきもの事典』(高橋書店)のほか、多くの図鑑監修を手がける。

この紙面では、さまざまな人を通して、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、**宗祖御遠忌テーマ**  
「今、いのちがあなたを生きている」、**慶讃テーマ**  
「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思います。

## 通信員リレーレポート Vol.232

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。

お寺に育てて  
いただいた人生

高岡教区 第四組 光教寺門徒

沖田 泰子さん (84歳)



井波別院瑞泉寺本堂にて

みなさんの周りに、「先生」と親しまれている方はいるだろうか。今回ご紹介する沖田泰子さんは、長年幼稚園の「先生」をされていたお一人だ。

大学を卒業後、小学校教諭を経て、結婚。子育てのために一時退職し、39歳の時、富山県南砺市にある井波別院瑞泉寺の境内地に井波地域としては初めての幼稚園である聖徳幼稚園が開園。周囲から熱望され、副園長に就任し、園児たちの先生となつた。

純真無垢な子どもたちを預かることへの責任に対し、大きな不安もあったそうだが、別院という場所で教育活動ができることは願ってもないことだと、むしろそのことを喜びに感じ、ご家族や周囲の方々に支えられて52歳の時には園長に就任されるなど、退職されるまで長年にわたり教育者として勤めた。

聖徳幼稚園は、どんな時でも、みんな揃つての朝のお参りから一日の生活が始まる。  
けんかをする子どもとともに一緒に

## 現在を生きる

仏様の前に座り、手を合わせて仲直りをするにはどうしたらいいか話しあったこともあったという。「子どもたちがいてくれたからこそ、私自身が仏様に手を合わせる事が自然に身につくきっかけとなりました。また、子どもたちと境内で泥んこになって遊んだり、運動したり、幼稚園での生活が実は仏様中心の生活だったと感じます。何よりも私は、聖徳幼稚園に勤めた縁で、井波別院に育っていたのだ。その思いがとても強いです」と振り返る。

幼稚園園長退職後の沖田さんは、井波別院瑞泉寺杉谷女性会の会長を務めながら、積極的に聞法されている。最近聞いた法話の中で「自分を知らないのは自分だった」という言葉を聞き、自分を見つめる生活をしながら、お寺や仏教に関わる尊い縁をいただいた幼稚園での生活をあらためてかみしめ、聞法に勤しんでいるそうだ。

最後に「これからもさらにお寺に足を運び、もつと聞法したい。そして、お寺が不安な世の中を生きる私たちにとって、拠り所であることを有縁の方に伝えていきたい」と話された。



幼稚園の夏祭りで子どもたちと一緒に

高岡教区通信員

竹部 俊樹

御同朋  
御同行  
からの問いかけ

～是旃陀羅の課題～

第14回

今、問われていること(6)  
教学

「旃陀羅」は、直接には古代インドの階級制度の中で、人間外存在として差別された人々を指した言葉です。しかし、日本においてこの語を解釈する時、「旃陀羅」を、被差別部落の人々を象徴する言葉に置きかえて説明されてきました。被差別部落に対する社会の差別的な眼差しが、安易に解釈の中で表されたのです。

宗門においても、江戸時代の安居(僧侶の学びの場)で、「日本にいれば穢多と云える如く、常人の交際のならぬもの」といった被差別部落の人々への生活上の差別までが取りあげられています。近代に入ると、直接的な表現こそ減っていきませんが、学びの中における差別性についての十分な検証はなされていません。その結果、全国水平社の創立や度重なる糾弾として被差別者から問われるまで、私たちのもつ差別性に気づくことがなかったことを歴史が証明しています。

宗門が問われている『仏説観無量寿経』における「是旃陀羅」の語について、様々な視点からこの問題を考えていかなければなりません。このコーナーでは、これまでの歴史を振り返りながら、宗門に属するすべての人々が課題を共有できるよう情報を発信していきます。

「是旃陀羅」にまつわる教学の歴史は、単なる過去の歴史ではなく、私たちの学び方を問うています。残された講義録や解説書は、それぞれの時代を懸命に生きた先人たちによる研鑽と聞法の中で培われたものです。その言葉を私たちは、「あの先生はこう言った」「この本ではこう書いてあった」ということに終始し、「答え」として利用していないでしようか。その答えでもって他者との間で分別をし、内と外を隔てる排除の構造を生み出しているのです。

「是旃陀羅」という具体的な問題に対して、自分の都合のよい答えで身を守るのではなく、なぜ問われているのかと一人ひとりが問いの前に身をさらし、教える聞き開いていくことが必要です。差別を生み出す排除の構造は私たちの生活意識と密接に関わっています。日常における差別を見過ごさずに立ち止まっていく学びが、今まさに問われているのです。

この記事に関するお問い合わせ

解放運動推進本部

075-371-9247

kaho@higashihonganji.or.jp

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入 Tel.075-343-0458 Fax.075-371-0458

## 法蔵館

http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp 新刊メール配信中!  
お買上16,500円(税込)以上送料無料 表示価格はすべて税込

## 奇跡 MIRACULOUS MERIT

僕らの親鸞

今井亮徳著  
23歳で渡米して50年余、僧侶、カウンセラーとして、さらに仏教書の英訳を通して、日本とアメリカの仏教を繋いだ体験を綴る。  
一冊二〇〇円

## 親鸞伝の史実と伝承

草野順之著

人々は親鸞のどのような姿を後世に伝えようとしたのか、伝承を史実に照らし合わせることで、親鸞伝の諸相を明らかにする。  
二〇九〇円

## 親鸞 左訓・字訓・語訓辞典

3刷

田代俊孝著  
親鸞聖人自身の言葉による真宗用語辞典が誕生! 親鸞聖人の著書の中に記された語彙や用語説明を丹念に集めた初めての辞典。  
三、三〇〇円

## 新装版 親経疏に学ぶ

玄義分1・玄義分2

廣瀬 果著  
親鸞の思想形成のあとをたどって、私塾開光学舎において、若き求道者達と共に読み、考え、語り続けてきた10年余の講義の集大成。  
一、四三〇円

## 寺、再起動

「ソビエト」からの脱出!

星野 哲著  
寺と社会の間に溝ができ、人々から期待されなくなつたのはなぜか? 寺を取り巻く状況と今後の可能性について切り込んでいく。  
一、四三〇円

## 正信念仏物語

親鸞聖人偈頌意訳本

松下雅文監訳  
浄土真宗の門徒なら誰もが知っている正信偈。ではその内容は? 正信偈の全文を、わかりやすい現代語で物語風に意訳した小冊子。  
二二〇円

## 〈季刊誌〉ひとりふたり:

お正月を迎える

施本に最適! 一三六円  
三〇部一冊二冊



「遇」

―師と出遇い教えに  
出遇い聞くことを得る―

六角堂での夢告に促されて、親鸞聖人は吉水（現在、京都市東山区）の法然上人の元へ向かわれました。そこでは僧侶だけでなく、当時の身分の違いを超えてさまざまな人々が集まり、それぞれが抱える「苦悩」を胸に、上人のお話を聞いておられたのです。上人は、そのような人々に対して、ただ念仏を称えることを勧めておられました。

法然上人の書が集められた『和語灯録』に「現世を過ぐべき様は、念仏の申されん様に過ぐべし」（この世は念仏できるように生きなさい）とあります。救われるためには、この20年間、親鸞聖人が大事にしてきた修行も戒律も必要ではなく、「南無阿弥陀仏」と、ただ阿弥陀仏の御名を称えるだけでいいとの教えです。ところが、一切衆生（すべてのいのちあるもの）が、その能力や地位や財産といった持っているものに關係なく、等しく共に救われていける道だということです。

法然上人は美作国（今の岡山県）の押領使（現在の警察のような役職）漆間時国のもとに生まれ、上り9歳の時、敵対する武士の夜襲を受け、父が殺されます。その時の遺言が次のように伝わります。

“敵を恨んだり仇を討ったりしてはならない。出家して、すべての人が、共にたすけあつて生きるこののできる道を求めよ。”

# 親鸞聖人に であう

浄土真宗をあきらかにされた親鸞聖人。  
大谷中・高等学校「京都」で  
生徒とともに学ばれている乾さんと、  
中高生の素直（リアル）な問いを手がかりに、  
「人と生まれたことの意味」を  
親鸞聖人のご生涯に学んでいきます。



乾 文雄  
京都教区近江第5組  
正念寺住職  
大谷中学・高等学校講師

「みな、自分に安心して生きてる？」

「救われる」と言われてもピンと来ないかもしれないから、第一段階として自分に安心して生きられているかを考えてみよう。例えば、思い出したら胃が痛くなるような過去をいまだに引きずっていたり、将来のことを考えると、どよんと心が曇ったり、今現在も得体の知れないモヤモヤ感に突然襲われたりすることない？ まったくないという人いる？」

残念ながら、手は挙がりません。みんな、少なからず「過去に対する後悔、未来に対する不安、現在に対する不平・不満・不足」のようなものを抱えながら生きているのです。

「そんなときはどうやって解決してる？」  
「できるだけ考えないようにしています」「目の前のことに集中します」「カラオケ！」等など。

「きつい言い方だけど、つまりはごまかしてるわけやな。で、それでその不安とか不満は消え去るかい？」  
「・・・」

「私たちがみんなが、自分であることを喜んで生き生きと生きるというのは、自分に安心することから始まる。そんな大事なことを教えてくれた人がいる。それはわれらが大谷の初代校長、名前は・・・」  
「清沢満之！」

「その通り！ すばらしい！ その先生がな、明治時代に『人事を尽くして天命を待つ』という言葉が流行ったときに、違う！ そうではなくて、『天命に安んじて人事を尽くす』ことが大事なんだと言われたのよ。まずは自分と自分に与えられたものに安心すること。その上で安心してやるべきことに全力で取り組むことが大切だよ」

「また、清沢先生は自分に安心するということは、ここに依って立つて生きていけばいいのだという『立脚地』を手に入れることや言われたのよ。そうでなければ雲の上でサーカスしてるようなもんやと。確かに足元が不安定では、ジャンプすることもじつとその場で踏ん張ることも難しいよね」  
「ならば、どうすればその立脚地が手に入るのか？」

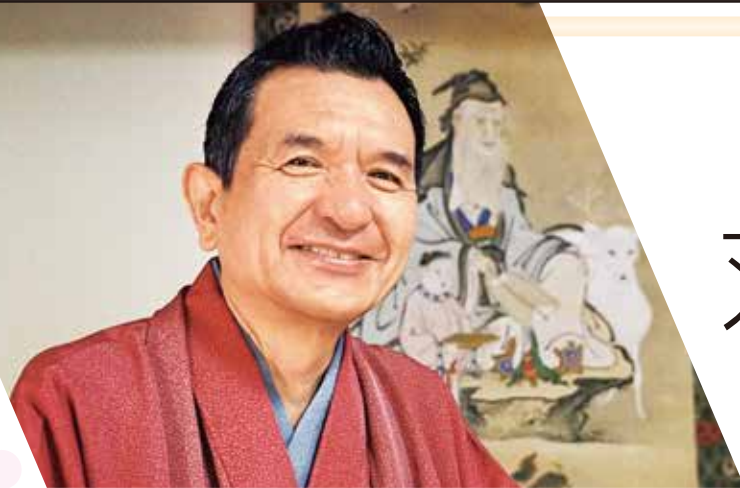
「私はどうすれば救われるのかと親鸞さんに問われた法然さんは『ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべし』と応えられたそうです。これまた乱暴やけど今風に言い換えるとな、『あんだ、自分で自分助けるのやめなはれ。念仏して阿弥陀さんにたすけてもらうたら、それでよろしいやん』ということかな。これを聞いて、みんなはどう思う？ 想像やけどな、親鸞さんは、救われるためにはこうあるべきだ、こうしなければならぬと思ひ込んでいたことが、まるでガラガラと音を立てて剥がれ落ちるような感覚やつたんと違つかない？」

「私が思うに、心の底から自分に安心するというのは、努力・学力・財産・地位・名声・人脈などでは不可能だということ。つまり、自分の力ではできないということやな。間違わんといてな。勉強は大事やで。でも、安心して生きていくためには必要なことがあつて、それは自分の力の及ばないことやということ」

その日から親鸞さんは「ただ念仏の道」を深く尋ねていくため、法然さんの元を毎日訪ねてはお話を聞かれます。念仏の教えに出遇うことで「教えを聞く力」をいただかれたのです。

## 桂 小春團治さん

1958年生まれ。落語家。77年、三代目桂春團治に入門。80年、大阪新花月で初舞台。82年、83年にはABC漫才落語新人コンクール新人賞受賞。98年、文化庁芸術祭新人賞受賞。99年、三代目桂小春團治を襲名。2000年頃から活動の場を世界に広げ、字幕を使った落語を披露するなどの取り組みを始め、2006年に文化庁文化交流使に指名される。同年NPO法人「国際落語振興会」を設立。2007年には文化庁芸術祭優秀賞受賞。2010年にはニューヨーク国連本部とカーネギーホールで公演。趣味はサックス、三味線、映画鑑賞、パソコン。



## 新春 対談



## 木越 渉 宗務総長

1957年生まれ。2021年10月に宗務総長に就任。石川県かほく市にある光専寺(金沢教区第11組)住職。宗議会議員を15年以上にわたり務める。趣味は写真、ジャズ鑑賞。

### 力を信じて伝える

**木越** 法話をする時、同じ話をして相手との反応によって、準備していた話と方向が変わってきたり、あるいはもう一回繰り返したり、別のたとえを出したりして話をします。最近法話をしていてふと思うのは、自分が何か特別なことをしているのではなく、仏教の持つ力を信じて話すことが大事なのではないかということです。

ある落語ファンの方に聞いたのですが、「らくだ」という演目を桂米朝師匠が演じた時に何回もファンの方が聞かなくなる。演目は同じでも、毎回違うのだと。その中に至高の一瞬がなぜかある。それに出たいという一心で、ずっと追っかけていたと話していました。それはどういうものなのでしょう。

**小春團治** 落語には、演者の力量だけではなく、聞いているお客さんと共同で作るものという特徴もあります。表現するのはなかなか難しいのですが、自分とお客さんの気持ちのサイクルみたいなものが、山と谷が合うようにすくすくきれいにはまる時があります。これは一年に一回いえ、何年に一度あるかないかという瞬間です。一度感じた方は「もう一度あの瞬間を感じたい」と追いかけておられるのだと思います。

落語は、私たちが座ったままで表現できる膝から上の両手を広げた空間での語り芸です。演者が一人で何人も演じる語りによって、お客さんの頭の中に登場人物や舞台の背景のイメージを広げていただく。ですから、

本年3月から親鸞聖人の御誕生と立教開宗を共に慶ぶご法要をいよいよお迎えします。  
法要期間中にはさまざまな催しが予定されていますが、ぜひお立ち寄りいただきたい一つが慶讃テーマ館。このエリアでは毎日2回、落語家の桂小春團治師匠による慶讃寄席が行われ、この慶讃法要のために書き下ろされた真宗落語の初披露の演目「親鸞で行こう」が上演されます。  
今月号はその小春團治師匠と縁のあった木越渉宗務総長との新春対談です。江戸時代に成立した落語はどうやらお坊さんのお説教から派生したものでしょうか。

### 二人の出会い

**木越** 師匠と初めて出会ったのは、今から24年前、1998年に勤まった連如上人五百回御遠忌での「きこく寄席」でした。私はスタッフとしてこの催事に関わり、初めて真宗落語に出会いました。御遠忌が始まる前から師匠にお越しただいて何度も打ち合わせをし、寄席の時は、舞台の設営から始めて、新作の「念仏道楽」を演じておられる師匠の姿を間近で見せていただきました。大阪の南御堂が舞台で、お念仏に親しんできた商人の人間像を描いた内容だったと記憶しています。

御遠忌の後、ぜひ金沢のご門徒にも真宗落語にふれてもらいたいと思い、師匠にお越しただいて、地元の大さな公民館のこけら落としての上演に始まり、その後、私のお預かりするお寺や、金沢別院での落語会にもお招きしました。

とても印象に残っています。師匠は「北陸、金沢に来て落語をするとても感心する。なぜかという、お客さんが落語を聞く耳、つまり人が話すことを聞き留める力を持っているから。それは仏教、真宗を大切に聞いてきたご門徒の耳なのだろうな」とおっしゃいました。そして「落語では、目の前にいるお客の反応を見ながら演じることを大切にしています。お坊さんはどうですか」と問いかけてくださいました。それ以降、法話をする時、相手を受けとめてくださっているのかを今まで以上に意識するようになりました。ありがたいうちに出会ったと思っています。

**小春團治** 落語は、江戸時代にお坊さんの説教から派生したと言われていて、落語とお寺とは切っても切れない仲です。落語の祖と言われる安楽庵策伝は、浄土宗の誓願寺(現在の京都市)のお坊さんで



非常にもろいものでもあります。客席で携帯電話の音がバンと一回鳴った途端、今までお客さんの頭の中でつくられていたイメージが、ガラガラと崩れていくのが演じていて見えるんです。

また、落語にはさまざまなストーリーがあります。笑いのあるネタだと、お客さんの笑いが起ってくるのでわかりやすいのですが、ストーリーは面白いけれども笑いの少ない話の場合、笑いとなって返ってこないで不安になります。でも最後にオチを言った後のお客さんのわあという拍手で、喜んでいただけたことがわかるのです。若い時は、しょうもないギャグを入れて笑いを取って少し安心して、話を進めてしまったりもしました。しかし、そうすると話の雰囲気が変わってしまうのです。話そのものの力を信じてやりきる。この歳になってやっとそのことに気づきました。

### 伝えるということ

**木越** 「伝える」という意識よりも、「伝わる瞬間を感じたい」ということでしょうか。きこく寄席の時も、横から師匠が話している様子とお客さんが聞いている様子の両方を横から見るところから学ぶものは、非常に大きかったですね。

お釈迦さまが教えた説かれた記録である「お経」は八万四千と言われるように、とても膨大な数があり

## ということ



す。法話の時に、いきなり難しい話をしていたのでは聞いている方も退屈するだろうと、法話の前にはいた笑い話や話題になって、その部分が独立して落語になったと言われていました。また、落語の用語には仏教用語がそのまま残っているものが多くあります。例えば、落語をする台のことを「高座」といいますが、これは、かつてお寺で説教師が座っていた高座が由来です。

元々落語は法話の時の「つかみ」でした。人に何かを伝える時、いきなり本題を切り出さずに、「ええ、お天気ですねえ」とか、「寒くなってきましたなあ」とか、そういうたわいのない会話を交わしながら、だんだん、本題に入っていくというのを、自然とやっています。相手の心をほぐしながら、大切なことを伝えていく。それが法話の前の笑い話だったのではないかと思います。

今回の慶讃法要を縁とした落語の上演も、いい機会をいただいたと思っています。とても楽しみにしているんです。

### 「真宗落語」を通して

**木越** 真宗落語は、仏教というものを大事に思ってくださいている真宗の教えに育った人間の話だなと感じます。

**小春團治** 真宗落語を始める時、台本の作者の廣瀬俊さん(大阪教区法観寺住職)に「囃の中にお坊さんを出さないでほしい」とお願いしました。僕はお坊さんではないし、落語に出てくるお坊さんの口を借りて説教くさく語っても伝わらない。一

般人の姿を通して語りてほしい。例えば物知りの甚兵衛さんが「こないだお寺さんでこんなこと聞いてきたんやけどな」というのを教える。そして、主人公が「ああ、いいこと教えてもらった。うちの嫁はんにも教えたろ」と仏壇・仏具の意味や並べ方を失敗しながら「あ、あ、そういう意味があったのか」とお客さんに発見してもらい、笑いながら教えるに触れていただけるようになるべく砕いた形、落語を楽しんでいただくという形にするにはどうしたらいいだろうと今までずっと苦戦していました。

**木越** きこく寄席も、金沢での寄席も、四人の演者が出、囃子、前座、トリの順で演じられて、それぞれの役割の違いがあることに気づきました。最初はお客さんの気持ちほぐして、二人目は、とにかくトリの方にその場を手渡していくような演じ方をされて、最後に師匠が聞いた人の心に残る演目をお話していただきました。今回の慶讃寄席では、師匠がお一人で演じられるということですが、三人分の役割を担うことになるのです。

**小春團治** 寄席は、ただ単に笑いを取ればいいというのではなく、コース料理のようなものです。メインディッシュばかり並んでいても疲れてしまいますよね。それぞれが役割を持ち、最後の演者の落語で「ああ、面白かった。よかったな」と思ってもらっていただくためにチームプレーとして構成されていて、僕は、全員でたすきリレーをしていると思っています。今回の慶讃寄席では、一人で前座から演じるということになりますが、そのことを大切に演じたいと思っています。

相手のことをおもはんばかるといふことは非常に難しいですが、その深さをあらためて感じています。



**小春團治** コロナを経てあらためて感じていることは、フェイストゥフェイスで演じる方も聞く方も同じ空間で同じ空気を感ぜながら得られる臨場感の魅力です。「真宗落語は、「真宗」と付くからといって構えて聞くことなく、落語として楽しんでいただきたいですね。笑いととも真宗にふれ、自然と知識も身につくという一回で二度おいしい話です。みなさんと慶讃寄席でお会いできるのを楽しみにしております。

## 「伝える」



### 慶讃寄席 桂小春團治 真宗落語 公演

#### 演目「親鸞で行こう」

3月25日(土)～4月8日(土)  
第1部 9:30～ 第2部 11:00～  
※27日のみ [第1部]13:30～ [第2部]15:00～  
4月15日(土)～29日(土)  
第1部 13:30～ 第2部 15:00  
※28、29日のみ [第1部]9:30～ [第2部]11:00～

**視聴覚ホール**  
公演時間は約30分です。第1部、第2部ともに同じ演目です。視聴の際にはぜひ法要にもご参拝ください。

希望される日時の空席状況を慶讃特設サイトでご確認のうえ、メールもしくはFAXにてお申込みください(先着順)。お席の確認が取れ次第返信いたします。なお、お申込みの際は①観覧希望日時②申込者氏名③観覧人数④連絡先(電話番号・メールアドレス)をお知らせください。

教区団体参拝受入センター  
メール dantaisanpai@higashihonganji.or.jp  
FAX 075-371-9204



南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

第28回

## 仏の世界が我が身を照らす

福井教区 第3組 應善寺

あしの  
葦 堃じゅんいち  
純一

聞

今月の  
法話

自分とは何であるのか、つくづくそのことを思わざるを得ない毎日を送っています。

自分の役割は何であるか、家庭や職場という場、教員や僧侶の立場など、さまざまに求められている存在を演じ続け、その結果として他者の承認を得て満足する。それを繰り返している自分がいます。時には相手の要求にこたえられずに失敗することもあり、「私は何とダメな人間なんだ」と思い至ります。そこから反省をして、次は失敗しないようにと意気込み、自分をよりよいものとして着飾っていくことで何とか生きています。

「頑張れ」。自他を鼓舞するこの言葉と向き合うと、必ずある出来事を思い出します。

十年ほど前、福井教区で福島の子どもたちに夏休みに一週間ほど過ごしてもらう保養事業がありました。私もスタッフの一人として子どもたちと遊んでいました。ある時二人の少年がぼそっとこう言いました。「頑張るって辛いことだよね」と。聞いていたのは私だけでしたが、確かにその少年は私に向かっ

「仏法は、聴聞にきわまることなり」(蓮如上人御一代記聞書)と教えられているように、真宗門徒は昔から仏法聴聞を大切にしてきました。日々の生活の中で仏さまの教えを聞いていただくことを願いに、毎月一話ずつ掲載します。

てこう言いました。突然その言葉を聞いて、私は何と返事をしたらいいのかわかりませんでした。その言葉の背景に何があるのか推測することしかできませんでしたが、頑張って着飾っていくあり方を苦しんでいるように感じてなりません。当時CMなどでは「頑張ろう」という言葉が喧しく言われ、それは世間ではとても大事なことであり、いい言葉として用いられていました。今でも激励や応援する時には何気なく出てくる言葉です。し、とりあえずこの言葉を使っておけば世間では問題ないのだと思います。相手に送る言葉としてこれほど便利な言葉はないでしょう。

しかし、それを何度も言われ続けているうちに、自分の頑張りが必要だ足りないのだ、と思い至ってしまうことがあると私たちは気づけているでしょうか。そして、言葉を受け取る相手に対して鈍感になってはいないでしょうか。

「頑張れ」と相手に送ることは、一面では相手を勇気づけたり、元気づけたりすることもあります。しかし、もう一面では、相手を締めつけることになり得るのです。かつて、京都の大谷高等学校に

在籍していた際、当時の学校長であつた真城義磨先生の法話で教えられたことがあります。それは「頑張れ」という言葉がけは相手に価値付けをしてしまう。今のあなたでは不十分だから、「さらに、もつと」と相手に要求することになる。その結果、言われて辛い人間を生み出すことになる」というお話でした。まさしく、この一言に悩み苦しんでいたのがあの少年ではないかと思っています。

しかし、自他ともに自分の物差しを用いて価値を測ろう計ろうとするのが私たち人間なのです。これは正しい、あれは間違っているダメなことだ、と思ひ込んで独善を主張してわがままに振る舞おうとする。そんな自分にはなかなか気づけません。傲慢・憍慢の極みであり、増上慢と教えられます。そして、今度は周りから批判を受ける。自分はダメなやつだったと勝手に落ち込んでしまいます。これは卑下慢と教えられます。自分では謙虚に振る舞っているのですが、つまるところ自分はどこまでも「良い自分」を演じて周りから「正しい人間」として見られたいのだと思っています。

自分の物差しはいつ手放すことができるのでしょうか。それは死ぬまで手放すことはできないのでしょうか。私たちの煩惱の炎はそれほど盛んに燃えているのです。「煩惱具足の凡夫」と親鸞聖人がおっしゃったこの意味が今こそ私に問われています。他人事や学問の問題ではなく、我が身の逃れられない問題としてどのように引き受けていくのか。今日もご本尊を仰ぎ、愚かであつた自分を確かめる日々が続きます。

「頑張らなくてもいいんだよ。あなたはそのままのあなたでいいんだよ」という言葉が、あの少年に響いてくれるのかわかりませんが、今の私はこの言葉に出遇いたいのだと思います。自分はまだまだ頑張ることを美德とする世界にとらわれていきます。しかし、そうではない世界、かつて法蔵菩薩が誓った世界、かつて法蔵菩薩が誓った世界、浄土があります。浄土は比べるものでもなく、善し悪しをはかるような世界ではありません。そのように苦しむ存在を包み込む仏の心が私の在り方に寄り添ってくださっているのです。その気づきを大事なものと受けとめていきたいです。

読者の  
お便り募集

『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先 Eメール/  
shuppan@higashihonganji.or.jp  
FAX/075-371-9211  
〒600-8505  
京都市下京区烏丸通七条上る  
東本願寺出版「同朋新聞編集係」  
◇住所・氏名・年齢・電話番号を明記  
してお送りください。紙幅の都合上、  
掲載時は添削・抜粋させていただきます。  
場合があります。

東本願寺御用達

日下念珠店

〒600-8174

京都市下京区烏丸通花屋町下ル

電話 (075) 351-6325

フリーFAX 0120-89-5255

定休日：日曜日

## 皆様の平安

平安は三つの信念で精進しています

- ① 優良な商品を吟味し御調製
- ② 価格も出来る限り勉強
- ③ 親切と誠意あるサービス

法衣、打敷、幕、会旗、念珠、  
稚児貸衣裳

御本山用達

平安法衣店

京都市下京区東本願寺大門前(〒600-8153)

電話 京都(075)351-3681(代)

FAX (075)351-5563

## 一般入試

試験制度	出願期間	試験日	合格発表日
第1期	12月19日(月) 1月18日(水) 締切日消印有効	[3教科型] 2月4日(土)/5日(日) [2教科型] 2月4日(土)/5日(日)/6日(月)/7日(火)	2月15日(水)
大学入学 共通テスト利用入試		[3教科型] [2教科型] 1月14日(土)/15日(日) 大学入学共通テスト (本学での個別学力試験等は課しません)	

★一般入試[第1期]では  
京都(本学)以外に学外試験場を設けています!

入試情報、  
資料請求は  
こちらから



お問い合わせ：入学センター  
〒603-8143 京都市北区小山上総町  
TEL: 075-411-8114(直通)  
E-mail: nyushi-c@sec.otani.ac.jp

Be Real



大谷大学

昨年の11月21日から28日にかけて真宗本廟報恩講が厳修され、8日間であわせて約9,200人が参拝し、インターネットライブ配信にて約2万回視聴された。

21日の初速夜から28日の結願日中まで七昼夜にわたる法要が勤まり、法要の前後には法話や感話が行われた。28日を除く毎日中法要後には帰敬式が執り行われ、報恩講を縁に多くの方が新たに仏弟子の名のりを上げた。

21日は報恩講の初速夜に先立ち、御正忌報恩講讃仰法要が音楽法要によって勤まった。法要前には慶讃テーマソング「今日も明日もあなたもわたしも」ひとりじゃない」を披露。引き続き、参拝者と共に勤められるよう編成された音楽法要曲(新実徳英氏作曲)を用い、電子オルガンの音色と、合唱団や参拝者の歌声が御影堂を包んだ。今年は小松大谷高等学校から9人、名古屋音楽大学から4人が初参加した。

25日の夕刻には『御伝鈔』が拝読され、参拝者は仄暗い御影堂で、親鸞聖人のご生涯に耳を傾けた。親鸞聖人の御祥月命日の28日は、結願日中(御満座)が「坂東曲」で勤まった。「坂東曲」は何十人も僧侶が体を前後左右に力強く揺らしながら念仏・和讃を繰り返す声明で、この「坂東曲」にあおると、早朝5時から開門を待つ人の姿も見られた。

子ども報恩講のついでに子ども報恩講の様子



渉成園の様子



御正忌報恩講讃仰法要(音楽法要)



結願日中の坂東曲



「御伝鈔」拝読の様子



結願日中の坂東曲

## 真宗本廟 報恩講 厳修

### しんらん交流館でのさまざまな行事

しんらん交流館では、24日には「仏教の人間観―生老病死を考える―」をテーマに真宗教学学会講演会を開催。また、26日から28日は親鸞聖人讃仰講演会を開催した。

### 渉成園での催事

真宗本廟の飛地境内地、渉成園(枳殻邸)では11月25日から27日まで、秋の渉成園特別企画「月夜書屋」を開催。3日間の夜限定で約300冊の本が自由に読める書屋が閨風亭に開かれた。日中とは別の穏やかな雰囲気の中、飲み物を手にリラックスした来訪者の姿が見られた。

また、25、26日には臨池亭にて対話のワークシヨップ「言葉でふれあうトーク・フォークダンス」が行われた。これは本年の慶讃法要において境内の南側特設テントで実施するワークシヨップの一つを先行実施したもの。参加者はルールに基づく対話の安心感や考えの多様性を感じながら催事を楽しんでいた。

## 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要お待ち受け 宗祖親鸞聖人御旧跡参拝奉仕団を開催



比叡山での様子

昨年10月15日から17日、本年3月にお迎えする「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」のお待ち受け事業の一貫として、「宗祖親鸞聖人御旧跡参拝奉仕団」を開催した。

奉仕団では、日程中に親鸞聖人が20年間修学の日々を送られた比叡山に身を運び、親鸞聖人の求道の歩みを辿った。

参加者からは、「比叡山を歩くことができ、先人たちのすばらしさを再度感じる事ができた」などの声が聞かれた。なお、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」の讃仰期間中の4月9日から11日、12日から14日にも、宗祖親鸞聖人ゆかりの御旧跡をたずねる讃仰奉仕団を開催する。詳細は同朋会館・研修部(075-371-9185)まで。

## ご案内

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、休館日・開館時間及び掲載内容について、中止・延期もしくは日程等を変更する場合がありますのでご了承ください。

真宗本廟(東本願寺境内) 京都市下京区烏丸通七条上

- ◇晨朝(おあさじ)【場所】阿弥陀堂及び御影堂 【時間】毎日7時～
- ◇晨朝法話 【場所】御影堂 【時間】毎日7時30分頃～
- ◇真宗本廟法話 【場所】視聴覚ホール 【時間】通常10時10分～/13時10分～ 速夜日(12・27日)13時10分～ 御命日(28日)9時30分～ ※その他、時間・会場を変更する場合があります。
- ◇参拝接待所ギャラリー 【時間】9時～16時  
修正会の荘厳と仏花 開催中～1月7日  
「親鸞聖人のご生涯」(常設展)開催中

詳しくは、真宗大谷派ホームページまで

東本願寺

検索

しんらん交流館 京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199番地

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひ真宗教化センター しんらん交流館にお立ち寄りください。  
開館時間/平日 9時～18時 土日祝 9時～17時 休館日/毎週火曜日

- ◇1月の定例法話  
【場所】1階 すみれの間 【時間】毎日14時～(12日・27日10時～)  
※毎週火曜日、12月27～1月9日は休会、その他都合により休会する場合があります。
- ◇1月の東本願寺日曜講演  
【場所】2階 大谷ホール 【時間】9時30分～11時  
【講師】◆1日…休会◆8日…休会◆15日…名和達宣(教学研究所所員)  
◆22日…狐野秀存(大谷専修学院院长)◆29日…佐野明弘(光闡坊住持)
- ◇交流ギャラリー(1階) 【時間】開館時間に同じ  
「柳宗悦がであった土徳～人と自然がはぐくんだ越中富山の美～」展  
【期間】開催中～2023年2月10日(金)[期間延長]
- ◇しんらん交流館 Tera School 【場所】1階 すみれの間  
【日時】毎週月・金曜日 18時30分～20時30分  
【対象】小学3年生～高校3年生 ※幼児教室もあります。 <http://www.teraschool.jp>



東本願寺いのちとこころの相談室 【TEL】075-371-9280  
【開室時間】毎週木曜日 13時～17時(祝日または休館日、その他行事日は閉室)

全国のお寺での取り組みや読みもののページなど、さまざまな情報を発信しています。

浄土真宗ドットインフォ

検索

## 「阿弥陀堂門」修復工事の完了並びに通り初め式執行

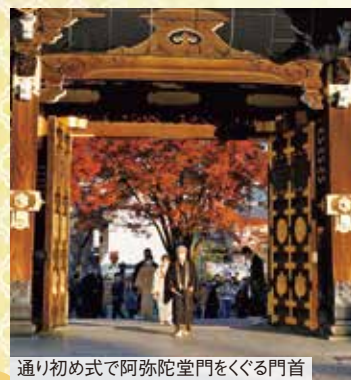


修復が完了した阿弥陀堂門

2021年9月1日から着手され、2022年1月から本格的な工事が開始された阿弥陀堂門の修復工事が昨年10月31日に完了し、11月12日に通り初め式が執り行われた。

現在の阿弥陀堂門は、1864(元治元)年の「蛤御門ノ変」による焼失の後、1911(明治44)年の「宗祖親鸞聖人六百五十回御遠忌」の記念事業として再建された。四脚門形式で、屋根は切妻造の檜皮葺、前面と背面に唐破風を付け、柱間の正面幅は約6m、高さ約11mを数え、同形式の門の中でも非常に大きなものである。1981(昭和56)年に屋根の葺

もに門が開き、門首を先頭に出席者が、西日を受けた金色の鍔金物が輝く門をくぐり、修復の完了を祝った。



通り初め式で阿弥陀堂門をくぐる門首

「開門」の声とともに門が開き、門首を先頭に出席者が、西日を受けた金色の鍔金物が輝く門をくぐり、修復の完了を祝った。

このたびの修復工事では、全面的な屋根の葺替を中心に、鍔金物の補修工事、木部の補修工事を実施した。また、通り初め式には、大谷暢裕門首、木越渉宗務総長をはじめとした宗派関係者、来賓として修復工事を担当した施工業者の代表者や修復にあたりご進納いただいた方々約60人が出席した。

## 大阪教区 宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要お待ち受け大会 南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう ― みんなに願いがかけられている ―



記念講演(一楽真氏)

10月29日、難波別院(大阪市中心部)を会場に、慶讃法要お待ち受け大会を開催しました。本大会は一人でも多くの方の参加を願い、教区内別院(天満別院、八尾別院大信寺、茨木別院、大和大谷別院、堺支院)をサテライト会場とし、さらにはご自宅等からも視聴できるよう、YouTubeでのライブ配信も行われました。難波別院での招待者、募集参加者172人に加え、ライブ配信での参加者100人、スタッフ60人の合計332人が参加しました。

大会当日は、木越渉宗務総長の挨拶の後、勤行があり、引き続き大谷暢裕門首の挨拶がありました。その後、一楽真氏(大谷大学学長・小松教区宗圓寺住職)による記念講演が行われました。

一楽氏は、「智慧光のちからより 本師源空あらわれて 浄土真宗をひらきつつ 選択本願のべたまう」(『真宗聖典』498頁)というご和讃を紹介し、浄土真宗を開いたのは法然上人であるという親鸞聖人の姿勢を教えてくださいました。その上で、幾度の法難(専修念仏の弾

圧)を縁として、法然上人の教えの意義をあらためて顕かにされたのが親鸞聖人のお仕事、ご苦労であり、法然上人と親鸞聖人、お二人で浄土真宗を開闢されたことと力強く語られました。堂内にお念仏の音が響きわたる中、最後に溝口重雄教区門徒会長が挨拶し、大会が閉会しました。参加者からは、「親鸞聖人の辿ってこられた道がよく理解できた。本山での慶讃法要は連れていかれるという感覚ではなく、自ら参加したいと思うようになった」(10歳男性)、「サテライト会場で参加し、はじめは違和感があったが、いつの間にか気にならなくなった。今後もこのような取り組みを継続してほしい」(70代女性)との声が聞かれました。

大阪教区では教区基本テーマ・教区慶讃テーマとして「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう―みんなに願いがかけられている―」を掲げています。本テーマを道標として、3月からの慶讃法要、そして2025年度以降に予定されている大阪教区慶讃法要に向けて、50年に一度のこの勝縁を大切に歩んでいきたいと思っています。

なお、一楽氏の記念講演は記念冊子として発行する予定です。(大阪教区通信員 志紀正機)



勤行の様子

家族やお友達を誘ってぜひ慶讃法要にご参拝ください

### どなたでもお申しただけ「一般参拝(指定席)」の募集が始まっています

教行信証展  
(パネル展示イメージ)



特別展示「剃刀」



親鸞聖人「安城御影」

12月から、お一人からお申しただけ「一般参拝(指定席)」の募集が始まっています。慶讃法要では、1日ゆっくりと真宗本廟でお過ごしいただけるよう、さまざまな催しが予定されています。見どころの一つ、慶讃テーマ館では、6・7面でご紹介した桂小春團治さんの「慶讃寄席」のほか、親鸞聖人のご生涯や教えにふれるパネル展や法要を機に制作された作品などの展示があります。なかでも特別展示では、親鸞聖人が9歳の頃に慈円和尚のもとで得度をした時に使用されたと青蓮院門跡に伝えられる剃刀が展示されます。また、東本願寺の諸殿や渉成園(関風亭)などの会場で、お斎(精進弁当)をお召し上がりいただけます。

家族やお友達を誘ってぜひ慶讃法要にご参拝ください。



精進弁当「慶」(イメージ)

募集期間

2022年12月1日～2023年2月中旬

申込方法

「一般参拝(指定席)申込書」に必要事項を記入のうえ、教区団体参拝受入センター(下記)へメールまたはFAXにてお申しください。また、必要事項を直接入力し、メールでお申込みいただくこともできます。

- ・空席がある日に限り、先着順にて受け付けます。
- ・参拝席の指定はできません。
- ・参拝席・お斎・慶讃寄席セットに加え、自由席でのご参拝で「お斎のみ」「慶讃寄席のみ」の申し込みも受け付けています。

申込・空席状況についてはこちらから



法要や催事の詳しい情報を掲載！  
「慶讃法要パンフレット」ができました



慶讃法要パンフレット表紙

参拝の計画の一助に、ぜひご利用ください。パンフレットは寺院・教会を通じてお求めください。

ダウンロードはこちらから



申込・お問い合わせ

TEL 075-371-9212 FAX 075-371-9204

教区団体参拝受入センター メール dantaisanpai@higashihonganji.or.jp

### 慶讃法要ボランティア募集！

“慶讃法要ボランティア”としてご協力いただける方を募集しています。真宗本廟で、全国の御同朋とともに慶讃法要をお迎えしませんか。多くの方々の参加をお待ちしております。

募集対象 真宗大谷派の僧侶・門徒・関係学校の学生

応募方法 所定のエントリーシートに必要事項を記入のうえ、右記応募先まで郵送またはFAXにて提出ください。  
※エントリーシートは宗派ホームページよりダウンロードできます。  
※郵送をご希望の場合は右記「慶讃法要ボランティア募集係」へご連絡ください。

応募締切 2023年2月28日(火)

募集内容 ①清掃・接遇業務 ②境内催事「憩いのひろば」「子どものひろば」のお手伝い

応募・お問い合わせ 真宗大谷派宗務所総務部 慶讃ボランティア募集係  
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地

TEL:075-371-9272

FAX:075-371-1214

※詳細は慶讃特設サイト「お知らせ」をご参照ください。

慶讃特設サイトはこちらから



# きょうさん 慶讃NEWS

今月は、岡崎教区、岐阜高山教区、大阪教区で開催されたお待ち受け大会の様子をお伝えします。  
※教区お待ち受け大会の報告は、浄土真宗ドットインフォでご覧いただけます。



## 岡崎教区 宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要お待ち受け大会 — 今の時代だからこそ —

10月13日、岡崎教区会館大ホールにおいて慶讃法要お待ち受け大会が開催されました。

大会に先立ち、三河別院本堂において大谷暢裕門首の剃刀による帰敬式が行われ、45人が仏弟子としての名告りである法名をいただかれ、歩み出されました。新型コロナウイルス感染対策として、大会への参加は帰敬式受式者と教区役職者に限定し、YouTubeにてライブ配信を行い、併せてサテライト会場も設けて計約200人が参加しました。

開会の前には、慶讃テーマソング「あなたのこえ」が教区合唱団コールアーバーによって披露され、参加者は配布されたパンフレットの歌詞に目を通しながら合唱の旋律に耳を傾けました。

続いて、「浄土真宗の名のりー五濁悪世の只中で学ぶー」を講題に、尾畑文正氏(三重教区泉稱寺前住職・同朋大学名誉教授)の記念講演がありました。尾畑氏は「暴力に対しては暴力だ、という価値観が広まる現代において、浄土真宗が今明らかにしないと本当の平



帰敬式の様子

和も本当の平等も見いだせない。だからこそ自信をもって浄土真宗を明らかにしていくことが今願われており、先人たちは暴力の連鎖を超えていく生き方をお念仏の教えにいただかれてきた」と語り、最後は「自分中心の考えでは平和を求めて戦争をするが、それを問い直すのが仏法であり「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」と親鸞聖人が続けて言われたところに本当の平和、本当の安穏がある」と締め括られました。

親鸞聖人は800年も前から「五濁悪世」と時代をいただきながらお念仏の教えを明らかにしてくださいました。近頃はコロナ下や戦争のニュース等、目を伏せたくないような現代社会の問題が浮き彫りになり「五濁悪世」と思う方も多いかと思います。そのような今の時代だからこそ、教えに我が身を問い尋ねていく重要さを知らされた大会であったと感じました。

なお、大会の様子は「真宗大谷派岡崎教区」YouTubeチャンネルのアーカイブ配信においてご視聴いただけます。



慶讃テーマソング披露の様子

(岡崎教区通信員 上野 瞭)

## 岐阜高山教区 宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要お待ち受け大会 —「場の創造」(真宗の宗風の回復・仏事の回復)と人の誕生(仏弟子)—



記念講演(梶原敬一氏)

高山別院にサテライト会場を設置し、岐阜・高山地区がひとつになって大会を迎えました。

岐阜地区教化センター長の近藤龍磨氏が制作した大会テーマソング「南無阿弥陀仏」が会場内のBGMとして流れる和やかな雰囲気の中で参加者をお迎えし、慶讃法要をお迎えする喜びを感じながら大会が開会しました。

同朋唱和による「正信偈」の勤行の後、引き続き大谷裕新門、尾畑英和参務の挨拶がありました。その後、澤邊恵亮氏(飛騨御坊真宗教化センター育成部会副幹事)より、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」のもと、「場の創造」(真宗の宗風・仏事の回復)と「人の誕生」を教区重点課題とし、岐阜地区・

10月16日、岐阜別院において慶讃法要お待ち受け大会が開催され、教区の課題を確認・共有する場として寺院代表、門徒会等各組織の代表者約270人が参加しました。高山地区には、

高山地区それぞれで創ってきた土徳としての「同朋唱和」を回復し、ひとりでも多くの人が仏弟子としての名告りをあげて歩む「帰敬式」を推進していくことが呼びかけられました。

続いて、「浄土の真宗は証道いま盛りなり」という講題で、梶原敬一氏(姫路医療センター小児科医長・真宗大谷派僧侶)による記念講演が行われました。梶原氏は、「現代を生きる私たちに降りかかる問題は容易に解決できないが、その状況を超える道を親鸞聖人は証道と願かにされた。その教えを託された私たちにとって、この慶讃法要は聖人の言葉に向き合い、真宗とは何かという原点に立ち返る絶好の機会」と、時に今の私たちの姿に危機感を訴えつつ、親鸞聖人の姿をたずねられました。

教区改編後、コロナ下で諸行事も両地区でひとつに集うことがなかなか難しい状況ではありますが、この大会の円成で一体感を感じ、今後も手と手を取り合って「ともに」歩む教区であり続けることを願います。



勤行の様子

(岐阜高山教区通信員 川並秀樹)



### 慶讃テーマリーフレット(PART4)を発行

このたび、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」を周知するためのリーフレット(PART4)を発行しました。

今回は、宮下晴輝氏(教学研究所長)がテーマについて執筆しています。その他、慶讃テーマに関する法話を視聴できるホームページのQRコードも掲載していますので、併せてご視聴ください。

リーフレットを手がかりに、慶讃テーマからの問いを深めていただくことを願っていますので、ぜひ『同朋新聞』と同様に、仏事の場や同朋の会などでご活用ください。

このリーフレットは、お手次の寺院・教会を通じてお求めください。なお、慶讃法要特設サイト(右記のQRコード)からもダウンロードできます。



入館状況については、研修部まで  
お電話でお問い合わせください。

### ◆真宗本廟 おみがき奉仕団

2泊

3月2日(木)～4日(土)

1泊

3月2日(木)～3日(金)

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を迎えるにあたって、阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを日程の中心とした奉仕団です。

申込締切 2023年1月20日(金)

## 2023年 真宗本廟奉仕のご案内

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

### ◆「慶讃法要奉仕団」・「讃仰奉仕団」・「真宗本廟奉仕 体験奉仕団」

#### 【第一期法要期間】

2泊 ①3月25日(土)～27日(月)  
2泊 ②3月28日(火)～30日(木)  
2泊 ③4月 1日(土)～ 3日(月)  
2泊 ④4月 6日(木)～ 8日(土)

#### 【第二期法要期間】

2泊 ⑤4月15日(土)～17日(月)  
2泊 ⑥4月18日(火)～20日(木)  
2泊 ⑦4月21日(金)～23日(日)  
2泊 ⑧4月24日(月)～26日(水)  
2泊 ⑨4月27日(木)～29日(土)

#### 【讃仰期間】

2泊 ①4月 9日(日)～11日(火)  
2泊 ②4月12日(水)～14日(金)

詳しくはこちら



申込締切 2023年2月24日(金)

「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」の期間に募集している奉仕団です。慶讃法要にお遇いする大切な時を一緒にお迎えしませんか。

※「真宗本廟奉仕 体験奉仕団」は上記「慶讃法要奉仕団」期間中に開催いたします。

参加費(共通)

②泊3日 18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円

①泊2日 13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円

※上記は大人(15歳以上)の場合です。※讃仰奉仕団は「御旧跡参拝参加費」として別途5,000円が必要です。

### 【お問い合わせ】同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185

- ・受け入れ状況などの情報は、同朋会館ホームページでご覧いただけます。
- ・ご入館される皆様に安心して過ごしていただけるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し運営しています。
- ・具体的な対策については、同朋会館ホームページよりご確認ください。



真宗本廟奉仕  
参加者の声を  
ご紹介

普通の日常では味わえない体験ができ  
本当によかったと思いました。  
地域、時代を超えていろんな方々と  
つながることができました。  
(70代・女性)

### 今月号の『同朋新聞』を読んで、

## プレゼント クロスワードパズルを完成させよう!

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、  
クロスワードパズルを完成させましょう!  
1月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

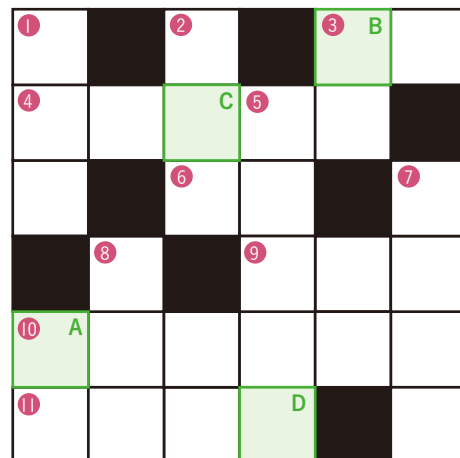
#### タテのカギ

- 『現在を生きる』今月は、「た〇〇〇教区」の沖田泰子さんを  
紹介しています。(4面)
- 慶讃法要への参拝と併せて、東本願寺の諸殿や「し〇〇〇い園」  
でお斎をお召し上がりいただくこともできます。(10面)
- 月刊誌『同朋』1月号の特別企画は、  
「本〇〇ってなんだろう?」です。(12面)
- 『親鸞聖人にであう』法然上人は、「みま〇〇〇〇〇」に  
お生まれになりました。(5面)
- 「人間〇〇〇〇のちの相」今泉忠明さんは、『わけあって  
絶滅しました』の監修を手がけられました。(2・3面)
- 「慶〇〇〇マリーフレット(PART4)」が  
発行されました。(11面)
- 今号では、岡崎教区、岐阜高山教区、「〇〇阪教区」お待ち受け  
大会の報告が掲載されています。(10・11面)

#### ヨコのカギ

- 昨年10月31日に阿弥陀堂門の修復が完了し、  
11月12日に「通り〇〇式」が行われました。(9面)
- 江戸時代に成立した落語は、「〇〇〇〇〇」のお説教から  
派生したと言われています。(6・7面)
- 『聞一今月の法話一』今月のタイトルは、  
「仏の〇〇いが我が身を照らす」です。(8面)
- 「御同朋・御同行から〇〇〇かけ」今月のテーマは、  
教学です。(4面)
- 11月21日に、御正忌報恩講讃仰法要が  
「〇〇〇〇〇〇要」で勤まりました。(9面)
- 『現在を生きる』今月のテーマは、  
「〇〇〇〇育てていただいた人生」です。(4面)

答え



11月号のクロスワードパズルの答えは、  
A は B つ C し D も

読者のこえ

(10月号を  
読んで)

◆来年、久しぶりに「親鸞展」に合わせ真宗本廟に参拝する予定です。涉成園の桜が見頃であればなおうれしいです。  
(60代男性)

◆内容がむずかしいですが、おじいちゃんに教えてもらいながら、いつも楽しくクロスワードをやっています!(8歳女性)

### チャレンジ!

正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1000円分」をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは1月31日(火)(当日消印有効)です。

#### メールでも応募できます!!

はがきと同様に必ず上記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞1月号クロスワード応募」と入力のうえ  
higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。



応募はコチラ

【ご注意】◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報プレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」に掲載する場合があります。  
◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る  
東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

編集室  
だより

◇人に自分の思いを伝える。わかってきている、言う必要はない。私の一方的な  
思い込みで大切なことまで伝えるのをやめてしまっていないか。今月号の編集で  
は、あらためてそんな自分の姿と向き合う時をいただきました。伝えるということ  
は、出あった一人ひとりとどんな関係を紡いでいきたいのかということともつながり  
ます。ありがとう、ごめんなさい、だいすき、助けて。ささやかな日常の中で、私の心の

動きをあきらめることなく言葉にして表現していきたいと思います。◇最近、お会い  
した方々と「次は慶讃法要でお会いしようね」と言葉を交わしたり、読者のお便り  
で「慶讃法要に参拝するのを今から楽しみにしています」とのお声をいただくこと  
が増えました。一生に一度のご法要。今だからこそお届けできる情報をより丁寧  
にお伝えしたいと思います。みなさまのご参拝を心よりお待ちしております。(高月)

## 月刊誌『同朋』お試し購読キャンペーン

詳細は東本願寺出版HP⇒



月刊誌『同朋』は、「仏教がみちびく、あらたな人生」を  
コンセプトに、一般の方々にも読んでいただける雑誌として、  
東本願寺出版より毎月1日に発行しています。

#### 1月号の主な内容

巻頭  
インタビュー 西川貴教さん(アーティスト)



#### 特別企画

「本尊ってなんだろう?」  
Q&A本尊の「?」に答えます/古田和弘さん  
(大谷大学名誉教授、九州大谷短期大学名誉学長)ほか

#### 連載

「親鸞万華鏡」、「和讃の響き」、「野菜が主役  
のみんなのおやつ」など

#### 表紙リニューアル(2023年1月号～)

北村人さん(絵本作家・イラストレーター)が毎月の特集テーマに  
合わせてクレヨンで描いた素朴なタッチの絵の表紙です。



お試し購読からはじめてみませんか?  
今ならお得に3カ月間お読みいただけます!

〔申込期間〕

1月1日(日)～2月28日(火)

『同朋』2023年1月号～3月号までの3カ月分  
通常2,100円(送料込)

通常の半額以下!

1,000円(送料込)

さらに

★お試し購読から引き続き年間購読のお申込みで、  
★愛読いただいている方が本キャンペーンをお友達にご紹介で、  
※ご紹介いただいたお友達がお試し購読をお申込みの場合に限ります

東本願寺オリジナルグッズをプレゼント!

お申し込みは (E-mail) books@higashihonganji.or.jp (TEL) 075-371-9189 (FAX) 075-371-9211